

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書

非ウイルス性を含めた肝疾患のトータルケアに資する人材育成等に関する研究
山梨県と甲信越ブロックにおける肝炎医療コーディネーター活動

研究分担者 井上泰輔 山梨大学 消化器内科・肝疾患センター 講師

研究要旨

【背景】2009年に山梨県で開始した肝炎医療コーディネーター（肝Co）は2018年度には全47都道府県で養成されている。今回、山梨県における肝Coの2次医療圏に注目した配置と甲信越ブロックでの養成・活動状況を検討した。

【方法】1）山梨県で2009～2020年度に養成した肝Coの配置状況を、2次医療圏、拠点病院、肝疾患に関する専門医療機関での職種別に確認した。

2）甲信越ブロックに属する新潟県、長野県、山梨県での肝Co養成数と配置や活動の把握・支援につき検討した。

【結果】1）山梨県では総計479人の肝Coを養成してきた。2次医療圏別では中北地域で最多の297人10万人対64・6人が養成され、看護師が120人と多く、社会保険労務士が19人と特徴的であった。峡南地域は10万人対が最多であった。峡東地区と富士東部地域では10万人対がそれぞれ26.2人、21.4人と県全体での51.9人に比し少数であった。拠点病院では養成118人中在籍は82人（69.5%）、実働は66人（陽性者中55.9%）と異動や退職が確認された。病棟看護師が多く外来は少数であった。専門医療機関では職種の偏りが大きく、3職種以上が在籍する施設は3施設のみであった。全12施設中2施設では不在であった。

2）新潟県では2011年から759人を養成し活動支援として拠点病院のホームページにコーディネーター質問箱を設置している。長野県では2018年から158人を養成し県へ活動状況報告書を毎年提出している。山梨県では甲府市Co交流会を結成し、メールリスト登録者に各種情報を配信している。

【結語】地域と施設ごとの肝Co配置確認により肝疾患に対する注目度の差や職種の偏りが判明した。不在や少数の施設を中心に職種の偏りも改善するべく県と拠点病院で指導する必要がある。甲信越各県では他県で取り入れていない独自の企画を始めていた。情報を共有していきたい。

A. 研究目的

肝炎医療コーディネーター（肝Co）は2009年に山梨県で主にウイルス性肝疾患患者への啓蒙や各種制度説明、診療サポート等のために養成が開始された。その後各地で養成されるようになり2018年度には全47都道府県まで広がっている。しかし各地での養成、活動内容は統一されておらず、職

種や配置施設も規定されていない。また、近年診療体制として2次医療圏での管理が進められている。そこで山梨県における現在の肝Coの配置状況を2次医療圏と職種を考慮して検討し、問題点を今後の養成や活動支援に繋げることを目的とした。あわせて甲信越ブロックに属する新潟県、長野県での養成・活動支援状況も確認した。

B. 研究方法

1) 山梨県における肝 Co の配置状況

・2次医療圏別の肝 Co 配置

山梨県の全 27 市町村 4 つの 2 次医療圏（中北地域、峡南地域、峡東地域、富士・東部地域）の肝 Co を職種別に確認した

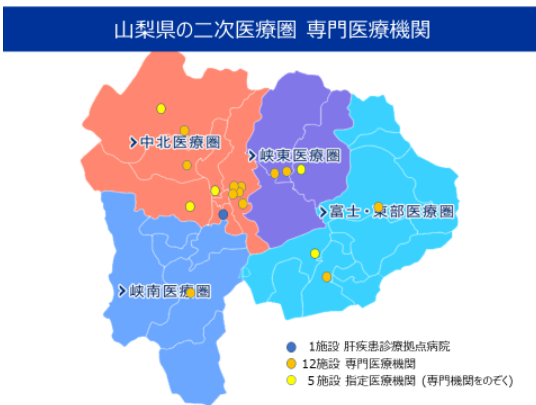
・山梨大学医学部附属病院の肝 Co 配置

診療連携拠点病院である山梨大学医学部附属病院での肝 Co 配置状況を確認した。

・肝疾患に関する専門医療機関の肝 Co 配置

山梨県の肝疾患の専門医療機関 12 施設での肝 Co 配置状況を職種別に確認した。

2) 甲信越ブロックに属する新潟県、長野県、山梨県での肝 Co 養成数と配置状況確認や活動状況の把握・支援を肝疾患センター担当者へのアンケートにより調査した。



C. 研究結果

1) 肝 Co の配置状況

・2次医療圏別の肝 Co 配置

2020 年度までに養成した全 479 人の肝 Co 中、山梨県在職は 421 人であった。中北地域は合計 297 人、人口 10 万人対で 64.6 人、職種は看護師が最多で 120 人 (40.4%)、次いで保健師 71 人 (23.9%)、薬剤師 24 人 (8.1%)、そして社会保険労務士 19 人 (6.4%) が特徴的であった。峡南地域は計 53 人、10 万対 110.8 人、保健師が最多で 20 人 (37.7%) であった。峡東地域と富士・東部地域は 10 万人対でそれぞれ 26.2 人、21.4

人と県全体の 51.9 人に比し少数であった。全市町村では 18/27 (66.7%) に在籍しており、9 市町村では不在であった。各医療圏と甲府市の計 5 か所にある保健所ではすべてに配置されていた。

二次医療圏別のCo養成状況

医療圏	人口 10万単位	肝Co 人口10万対	肝Co 数	医師	看護師	保健師	臨床検査技師	薬剤師	栄養士	MSW	介護職	事務職	社会保険 労務士	その他	
中北地域	459,908	64.6	297	2	120	71	40	24	8	1	1	1	6	19	5
峡南地域	47,845	110.8	53	2	7	20	1	2	3	0	0	0	1	1	1
峡東地域	129,703	26.2	34	1	2	11	7	4	2	0	0	0	6	1	0
富士・東部 地域	172,971	21.4	37	1	6	13	10	3	2	0	0	0	2	0	0
合計	810,427	51.9	421	6	135	115	58	33	15	1	1	12	23	6	6

山梨県 佐山元一氏作成

コーディネーター在籍状況は医療圏別に格差があり、東部は少数であった
全市町村では18/27 (66.7%)に在籍しており、9市町村では不在であった
保健所は全てに配置されていた

・拠点病院での肝 Co 配置

山梨大学医学部附属病院では 2020 年度までに合計 118 人を養成していた。そのうち現在も在職しているのは 82 人 (69.5%) であり、配置換え等を考慮した実働数は 66 人 (養成者中 55.9%，在職者中 80.6%) であった。職種では看護師が 40 人と最多で、病棟に 34 人、外来は 4 人であった。他職種としては臨床検査技師 17 人、栄養士 5 人、メディカルソーシャルワーカー 2 人、薬剤師と臨床工学士が 1 人ずつであった。

山梨大学附属病院のCo養成状況

養成数	在職数	実働数	2009~2020年
118	82	66	
	69.5%	養成者中 55.9%	
		在職者中 80.6%	

看護師	臨床検査技師	薬剤師	栄養士	MSW	臨床工学士
40	17	1	5	2	1
病棟34, 外来4 肝疾患センター1					

認定後に退職や異動もあり、実働数は養成数の55.9%
看護師は多くが病棟所属で外来は少数
薬剤師は少数となったが今年度3名受講

・専門医療機関の肝 Co 配置

山梨県では中北地域に 7 施設、峡南地域に 1 施設、峡東地域と富士・東部地域に 2 施設ずつ、計 12 施設が肝疾患診療の専門医療機関として登録されている。10/12 施設に Co が在籍しており 2 施設では不在であった。

最多の 19 人が在籍する A 病院では看護師が 18 人以上は社会福祉士 1 人のみであり、3 番目に多い C 病院では看護師は不在で事務職 6 人と臨床検査技師 4 人とであり、施設により職種の偏りが大きかった。3 職種以上が在籍する施設は 3 か所のみであった。本件には専門医療機関と重複しない肝がん重度肝硬変治療研究促進事業の指定医療機関が 5 施設登録されているが、1 施設に看護師 1 名が在籍するのみであった。

専門医療機関のCo養成状況									
医療機関名	合計	医師	看護師	臨床検査技師	薬剤師	栄養士	事務職	MSW	社会福祉士
A病院	19		18						1
B病院	12		7	1	3		1		
C病院	10			4			6		
D病院	6		5	1					
E病院	4	1	1	1	1				
F病院	4		1	1	1	2			
G病院	3		2	1					
H病院	3		1	2					
I病院	2		1	1					
J病院	1		1						
K病院	0								
L病院	0								
専門医療機関合計	64	1	37	11	5	3	6	0	1

山梨県 浅山光一氏作成
肝疾患診療の専門医療機関では10/12施設でコーディネーターが在籍職種には偏りがあり、均てん化が望まれる
2施設でコーディネーターが不在であった
専門医療機関と重複していない5つの指定医療機関では1施設で1名の看護師が認定されているのみで、他4施設には不在であった

2) 甲信越ブロックでの肝 Co 養成・活動支援

・新潟県では 2011 年から肝 Co 養成を開始し 2020 年度までに 759 人認定している。県の養成目標数は設定していない。施設別の配置確認は拠点病院としてはおこなっておらず、活動内容の把握もできていない。認定者支援としてフォローアップ講習会のほか、2020 年 8 月より拠点病院のホームページ上に新潟県肝炎医療コーディネーター質問箱を設置してコーディネーターからの活動上の質問に対して拠点病院スタッフが対応を開始している。

・長野県では 2018 年から開始し 2020 年度までに 158 人認定している。県の養成数目標は設定していない。施設別の配置を県と拠点病院で把握しており、3 年に 1 回 Co 研修会へ参加することにより認定更新としている。また毎年県へ活動状況報告書を提出している。2020 年度の報告数は 74/108 通であったが、活動なしとの報告もみられる。

・山梨県では 2009 年から 2020 年度までに 479 人認定している。目標数は設定しておらず認定更新制度も導入していない。配置状況は県と拠点病院で職種を含めて把握している。活動支援としては年 1 回のスキルアップ講座 (2020 年、2021 年は WEB 開催) のほか、甲府市では肝疾患コーディネーター交流会を結成し、メルリスト登録者に不定期に講演会案内や各種肝疾患関連情報を配信している。2020 年 2 月～2021 年 3 月配信 17 回、2021 年 4 月～2021 年 12 月配信 6 回。

甲信越ブロック各県での肝Co活動						
	養成開始	認定数	目標数設定	施設別配置確認	活動把握	活動支援
新潟県	2011	759	×	△	×	○
長野県	2018	158	×	○	○	○
山梨県	2009	479	×	○	×	○

新潟県：県で配置確認をしているが拠点病院での認識が曖昧
拠点病院WEB上でCo質問箱を設置
フォローアップ研修会を開催

長野県：Coが活動状況報告書で活動内容を県へ報告
3年に1回Co研修会へ参加することにより認定更新

山梨県：スキルアップ講習会を開催
マニュアル等支援資料を配布
甲府市でメルリストにより情報発信

新潟県での肝Co支援活動



2021年8月に開設

甲府市でのCo交流会・メルリスト

甲府市内の肝疾患Co交流会について

市内の肝疾患コーディネーターの交流会発足

ネットワークの構築

ネットワーキング構築のための第一歩として、拠点病院の協力の基にメルリストを作成

右の参加申込書により希望者が加入できる仕組み。

発足時期：2020年2月

リスト管理：甲府市役所 (暫定)

メルリスト登録 33名
2020年2月～2021年3月 配信17回
2021年4月～2021年12月 配信6回

現在甲府市から全県へ対象を拡大するべく検討中

D. 考察

山梨県では歴史的に過去の日本住血吸虫症蔓延の有無で肝疾患への注目度に差がある。今回の2次医療圏別の肝Co配置を見ても住血吸虫の影響が少なかった東部ほど人口10万人対での養成が少数であった。以前の検討ではこうした注目度を背景にした対策の遅れが相対的に高率なHCV感染者残存に繋がっている可能性が示唆されており、今後行政、医療、住民への啓蒙に力を入れ、肝Co養成と残存HCV症例の治療に繋げる必要がある。山梨県社会保険労務士会の理解があり社労士の養成数が多いのは山梨県の特徴と言え、肝疾患患者の就労対策に有意義であり今後も継続して協力していきたい。拠点病院では養成数が多いが退職や異動のため実働数は養成数の55%であった。職種にも偏りが目立ち、今回の調査を基に実働数の少ない部署での養成へ働きかける予定である。専門医療機関ではさらに偏りが強く、多くの施設で不在の職種が目立つため現状をフィードバックして調整するべきである。甲信越ブロックの調査では新潟県でのホームページ上の質問箱、長野県での活動報告書、山梨県での甲府市肝Co交流会メール配信など各県独自の活動が確認された。情報を共有してさらなる活動の活性化に繋げたい。

E. 結論

地域と施設ごとの肝Co配置確認により

肝疾患に対する注目度の差や職種の偏りが判明した。不在や少数の施設を中心に職種の偏りも改善するべく県と拠点病院で指導する必要がある。甲信越各県では他県で取り入れていない独自の企画を始めていた。情報を共有していきたい。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

浅山光一、古屋好美、有菌晶子、中山康弘、井上泰輔、榎本信幸. 甲府市における肝疾患コーディネーターの健康施策への可能性と新たな取り組みについて. 第57回日本肝臓学会総会 肝臓 62巻 suppl. (1) A244, 2021年

3. 啓発活動

井上泰輔、浅山光一、佐藤光明. 2021肝炎医療コーディネーター研修会 WEB肝疾患コーディネータースキルアップ講座. WEB配信: 2021年10月23日～31日

G. 知的所有権の取得状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし